

はしがき

本書は、法律文化社から出版されていた高森八四郎著『民法総則』の後継本である。前書は、法律文化社による2006年発行の初版（前身は、『民法総則講義』京都玄文社、1990年、後に絶版）から2020年発行の改題補訂版までの約14年間の長きにあたり、関西大学はじめ多くの大学で教科書として使用されて好評を得てきたが、高森先生のご逝去に伴い、残念ながら更新が不可能となった。そこで、高森先生にご指導いただき、前書を教科書としても使用してきた編者と法律文化社が協議した結果、同社のご厚意によって、本書を後継本として出版することになった。

本書の編集方針としては、高森先生の考えを受け継ぎつつも、現在の学生に読みやすい形でゼロベースからリニューアルし、初学者の理解に配慮したテキストとすることをめざした。その際、高森先生がよく言われていた「木を見て森を見ずにならないように」という言葉を大切にし、章のはじめに「森を見る」というタイトルで章内容の体系上の位置づけを明確にした。また、民法総則は、法律学をはじめて学ぶ学生が最初に出会う法律分野であることから、初学者が見落としがちな「意義、要件、効果」の区別を明確にし、随時設例を提示しながら、わかりやすく執筆することにした。

高森先生は、「法律学は大人の学問である」として、法律学を学ぶには社会経験が必要であるとしながらも、他方では、学兄である学生とともに学ぶべし、教科書は学生諸君と一緒に歩んできたその結晶であると話されていた。筆者達は、社会経験の少ない学生諸君に少しでも民法を理解してもらえるよう努力してきたが、まだまだ足りない部分があると思われる。ご意見をいただき、ともに学んでより充実したものにしていきたいと考えている。

本書の出版にあたって、法律文化社には、出版事情の大変厳しい中、後継教科書としての発刊のお許しをいただき、また、八木達也氏には、企画段階から出版に至るまで大変お世話になった。記して心より感謝申し上げる次第である。

2025年3月

野口大作